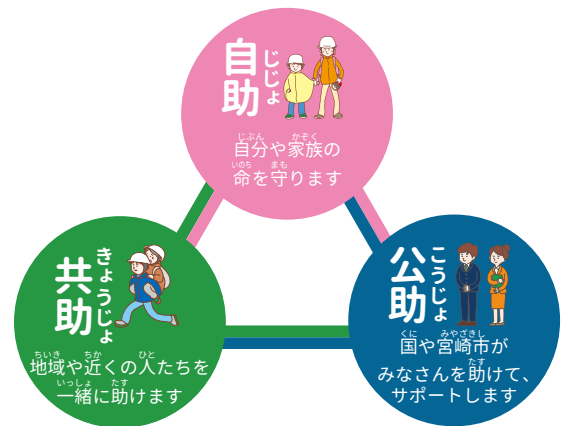


自治会の防災グループ(自主防災組織)に協力しよう

災害(台風や大雨など)に負けない町を一緒に作りましょう。

大きい災害があった時、道が通れない/たくさんの場所で火事・事故があるかもしれません。その時、宮崎市や宮崎県、国がみなさんを助けること(公助)ができないかもしれません。ですから、自分で準備したり逃げたりすること(自助)、同じエリアに住んでいる人を助けること(共助)がとても大切です。



災害(台風や大雨など)の時に自分/近くに住んでいる人が困らないように、災害(台風や大雨など)の時の大変なことを少なくするために、自治会(住んでいる地域・エリアのグループ)の自主防災組織に協力して、近くに住んでいる人と一緒にできることを、少しずつ始めてみませんか？

Point 1

自主防災組織とは？

近くに住んでいる人が一緒に防災の準備をしたり、いろんな練習をしたりするグループを「自主防災組織」と言います。

災害じゃない時は、防災訓練(練習)や災害に気をつけるためのお知らせ・準備をします。災害の時は、火事の小さい火を消す/ケガしている人などを助ける/みんなで避難する(にげる)、避難所へご飯を作る・水などを配るなどを一緒にします。



Point 2

どうして「自主防災組織(グループ)」が必要？

大きい災害(台風や大雨など)があった時、みんなが消防署(119)に電話をするので、みなさんを助けることができないかもしれません。

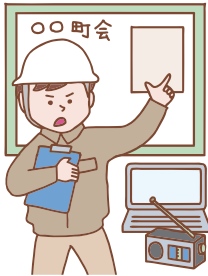
この時、近くに住んでいる人たちが、

避難の情報を教えてあげる 避難(逃げる)場所へ一緒に行く・手伝う 大丈夫かどうか確認する・聞いてみる
動けない人、ケガをしている人をみんなで助ける

これをすると、一人で大変な人を助けることができるかもしれません。

また、災害(台風や大雨など)の前に、「近くに住んでいる人は、どんな人たちか」を確認しましょう。そして、災害(台風や大雨など)の時に、誰が何をするかを一緒に決めたほうがいいです。

大変な時に、すぐにみんなでできるように、「いつ・だれが・何をするか」を準備することが大切です。

	じょうほう つた ひと 情報を伝える人 (情報班)	ひ け ひと 火を消す人 (消化班)	ひなん おし ひと 避難を教える人 (避難誘導班)	たす ひと 助ける人 (救出救護班)	はん の もの じゅんぴ ひと ご飯、飲み物を準備する人 (給食・給水班)
台風や大雨じゃない時 たいふう おおあめ とき	- 近くに住んでいる人にお知らせする方法を考える - 情報を集める、お知らせの練習をする - 災害(台風や大雨など)の準備を、ときどきお知らせする - 宮崎市役所や消防署と連絡・相談しておく 	- 小さい火を消す練習をする - 火を消すための水の準備、場所の確認 「火事に注意」のお知らせをする 	- 避難(にげる時)の道、避難する場所を確認する - 避難のお知らせ/案内の練習をする - 避難する道が安全かどうか確認する - 避難する時に助けなければならない人がいるかどうかをチェック 	- ケガした人を助ける方法のお知らせをする - AEDの使い方練習(救命講習)に参加する - 薬やガーゼ、ケガをした人を運ぶものを準備・確認する - 近くに医者や看護師などが住んでいるかどうかを確認する 	- 食べ物/水を自分で準備するように、お知らせをする - みんなの食べ物を作る(炊き出し)練習をする - 炊き出しの材料や道具を確認、チェックする 
災害の時 さいがい とき	- 災害の情報を近くに住んでいる人に正しく・速く伝える - 近くのエリアの被害情報(家が壊れた・人が逃げることができない)を、本部へ連絡する 「正しい情報を見ましょう」「火事に注意」とお知らせする	- 小さい火を消す 「情報を伝える人」と一緒に「火事に注意」とお知らせする	「情報を伝える人」と一緒に「避難しましょう(逃げましょう)」とお知らせする - 安全な道を選んで避難する場所を教える - 一人で歩けない人などと一緒に避難する(逃げる) - 避難した場所で、みんなが大丈夫かどうかを確認 - みんなが大丈夫かどうかを「助ける人」に連絡する	「避難を教える人」と一緒に助ける - けがをした人を運ぶ、血が出ていたら血を止める、など避難所などで、けがをした人を助ける	- 食べ物や水、けがや病気の人を助けるための物を受け取る、配る - 必要の時は、炊き出しをする

MAP(ハザードマップ)のチェック方法/エリアの確認

MAPは、どうやって見る？

どんな災害があるか / どれくらいあぶないか / 避難所がどこか

洪水浸水想定区域図:川の水が来た時、水は何mくらい？		土砂災害(山の土・砂が、家や道路に来る)			
	20.0m～	あぶない場所	土石流		土石流があった時に、人が死ぬかもしれない / けがをするかもしれない場所
	10.0m～20.0m		がけ崩れ		急に「がけ崩れ」があった時に、人が死ぬかもしれない / けがをするかもしれない場所
	5.0 m～10.0m		地すべり		地すべりがあった時に、人が死ぬかもしれない / けがをするかもしれない場所
	3.0m～5.0m				
	1.0m～3.0m				
	0.5m～1.0m	あぶない場所	土石流		土石流があった時に、家・建物が壊れるかもしれない / 人が死ぬかもしれない / けがをするかもしれない場所
	0.3m～0.5m		がけ崩れ		急に「がけ崩れ」があった時に、家・建物が壊れるかもしれない / 人が死ぬかもしれない / けがをするかもしれない場所
	～0.3m				
このMAPは、大淀川・本庄川・深年川、一ツ瀬川・三財川、石崎川、八重川、新別府川、大谷川、瓜田川、加江田川、清武川をチェックできます。		たてもの建物のマーク			
	川の水で家が壊れるかもしれない場所		宮崎市の避難所(洪水があぶないエリアの外)		
	2001年～2019年に、台風・大雨で水が来た場所		宮崎市の避難所(洪水があぶないエリアの中)		
宮崎市の町に水が来た年・月:(※内水=低いところなどに水が集まる) 2001年10月豪雨(内水) 2005年9月台風14号(内水、洪水) 2016年9月台風16号(内水) 2017年9月台風18号(内水、洪水) 2017年10月台風22号(内水) 2018年9月台風24号(内水) 2019年9月豪雨(内水)			主な施設		
	アンダーパス(低い道路)		病院など		
	災害(台風や大雨など)の時に危険なところ		ライフライン(電気・ガス・水道・電話)		
			川の水の量をチェックする場所		

「洪水浸水想定区域図」は、川から水が出てきた時のコンピューター・シミュレーションです。予想よりたくさんの雨が降った時/海の波が高い時/低い道路に水が集まった時は、ほかのところもあぶないかもしれませんが(MAPで色がないところに水が来る/水の「m」がもっと多い、など)。「洪水浸水想定区域図」はコンピューター・シミュレーションなので、川の堤防(川の水が出ないように高くなっているところ)の近くは、色がついていません。その近くに住んでいる人は、周りの色を見て注意してください。

MAP 凡例		有料道路		支所・官公署		郵便局
		橋通		町役場		金融機関
		国道		警察機関		図書館
		県道		消防署		主な運動施設
		その他の道路		大学・短大		宿泊施設
		J R線路		小・中・高校		キャンプ場
		他の市町との境界線		その他の学校		ゴルフ場
		大字町名境界線		寺社		観光スポット
		河川・ため池		神社		

宮崎市洪水ハザードマップ 令和3年3月

発行：宮崎市役所 危機管理部 危機管理課 TEL0985-21-1730

無断で複写、転載することはご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは著作権法により禁止されています。

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 293-104号」「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 294-009号」

「この地図は、宮崎市長の承認を得て、同市所管の1/10,000及び1/2,500現況図を使用して調整したものである。(文書番号)宮都計第29-5号」令和元年5月23日

制作・著作：株式会社ゼンリン宮崎営業所 TEL0985-24-8887 ©2021 ZENRIN CO., LTD.

【お断り】

本文中の地図は弊社地図データをもとに作成しております。また、住宅地図による現地調査情報、編集独自の細かな情報収集も加えて製作しております。作成には細心の注意をはらい編集作業を行っておりますが、データ量は膨大であり日々変化する現状と地図面が一致しない場合があります。また目標名称等は見易さを優先し正式名称などを一部割愛したり旧字を新字で表現しております。申し訳ございませんが、何卒ご了承くださいませようよろしくお願い申し上げます。